

平成18年度JAPANブランド採択プロジェクト月次報告 ブランド確立支援(2年目)案件:2006年7月分

番号	実施団体名 / 今月の事業実施状況 / 担当者のコメント
1.	<p data-bbox="193 338 1310 376">東通村商工会 【「飛躍する未来へ!!「ひがしどおり海山喰(か)さまい」創出プロジェクト】</p> <p data-bbox="193 387 520 421">< 今月の事業実施状況 ></p> <p data-bbox="193 427 1465 506">7月21日村役場において2年目となるJAPANブランド育成支援事業「飛躍する未来へ!!ひがしどおり海山喰(か)さまい創出」プロジェクト、平成18年度第1回実行委員会を開催しました。</p> <p data-bbox="193 512 1465 672">本年度の商品開発として、干し貝柱・干しアワビ・干しナマコセット、みそ貝焼きセット、ジユラ紀湧水仕込み「吟醸酒」開発及び昨年度開発したジユラ紀湧水仕込み特別純米酒「祈水」の古酒づくりやジユラ紀湧水仕込み特別純米酒「祈水」の能舞演目シリーズ化に取組むことが決定した。</p> <p data-bbox="193 678 906 920">豊かな自然の中で育った海と山の幸、おいしい水をキーワードに、地域の素材にこだわった高級志向・健康志向製品を開発。国内は横浜等、海外は中国大連等で市場調査、展示会や商談会を開催し、販路の開拓拡大を目指し、イメージキャラクターや商品パッケージの製作も行うことが併せて決定した。</p> <p data-bbox="193 927 906 1005">また、7月下旬には総合プロデュースの山本アドバイザーが中国で第1回目の市場調査を行なった。</p>  <p data-bbox="1062 1032 1342 1066">第1回実行委員会(7/21)</p> <p data-bbox="193 1117 461 1151">< 担当者のコメント ></p> <p data-bbox="193 1158 1465 1236">当初の予定どおり第1回実行委員会を7月中旬に開催し、総合プロデュースの山本アドバイザーが中国で第1回目の市場調査を実施することができた。</p> <p data-bbox="193 1243 1465 1321">昨年度の事業実施成果や今月の事業実施を踏まえ、今後さらなる飛躍を期待できる。しかしながら、海外販路開拓においては未知のため少々不安が残るため改善していきたい。</p>
2.	<p data-bbox="193 1368 987 1406">飯田市鼎町商工会 【「飯田水引ブランド」世界へのはばたき】</p> <p data-bbox="193 1417 520 1451">< 今月の事業実施状況 ></p> <p data-bbox="193 1458 1465 1536">7月10日:水引写真(CD-ROM)を(株)地域振興総合研究所の要請で、「パリ市場調査事業」用に送付。</p> <p data-bbox="193 1543 695 1576">7月20日:第2回プロジェクト委員会</p> <p data-bbox="193 1583 1390 1617">(株)地域振興総合研究所企画のパリ市場調査事業(9月1日~7日)参加内容について協議</p> <ul data-bbox="220 1624 1310 1742" style="list-style-type: none"> ・展示品はかぶとほか大物数点と小物で固める。 ・次回までに試作品を各社作ること。 ・24日のセミナーでは成功地区の海外エージェントとのつながりを聞き出してくること。 <p data-bbox="193 1749 1465 1783">7月24~25日:海外進出セミナー・担当者会議・パリミッションミーティング(東京) 事務局長出席</p>

3. 福田町商工会【FUKUDE コード・ルネッサンス MISSION～コーデュロイ(ブランド名 solbreveco)の世界への発信】

<今月の事業実施状況>

- 1)7/4 (火)第1回委員会・部会開催、委員委嘱・事業計画等説明後各部会にて、今後の取り組みについて検討。
- 2)7/25(火)付加価値化技術講習会開催、発足した、solbreveco 会員が染色技術について学んだ。
テーマ:コーデュロイ、ベッチンに利用したい差別化加工・機能加工技術
講師:大和染工(株) 技術科チーフ 寺田 裕美 氏



付加価値化技術講習会
(7/25 福田町商工会会議室)



磐田市福田支所展示風景

4. 有松商工会【創造と進化～有松鳴海絞りブランド～】

<今月の事業実施状況>

- 6月21日 第1回実行委員会
- 6月29日 第2回実行委員会
- 7月26日 第3回実行委員会

委員会において事業の概要についての説明をし、各委員の意識を高めるとともに、試作品の製作及び、展示会の方法、さらに、マスコミへの告知方法やスケジュールについて、検討しました。

まず、SOUSOUデザイナー若林氏、及び脇坂氏のデザインをもとに、テキスタイルサンプルの作成を進めることになりました。これを基に試作品のアイテムを決定しそのデザイン等も進めていきます。

現在、プレスや雑誌掲載用に、一部の試作品を先行して製作しています。



7月5日 SOUSOU視察、伝統産品輸出シンポジウム参加

5. 紀北町商工会【JAPANブランド ザ たべきり】

<今月の事業実施状況>

市場調査・国内出展

“ラボラトリー手法”(実験的店舗)を用いて、『JAPANブランド ザ・たべきり』シリーズの主流商品となる「昭和の食卓」(ひもの)・「レンジ料亭」(加熱調理済ひもの等)などを中心とした、試食・サンプル配布・商品展示・インタビューなどによるマーケティングリサーチを行った。

開催期間:平成18年7月26日(水)～31(月)

開催場所:イトーヨーカドー 横浜・上永谷店

名称:「三重 東紀州～紀伊長島港・引本港 食フェア」

専門家招聘

上記の出展会場に専門家を招聘し、今後の販売戦略の策定や商品開発を目的に、JAPANブランド商品に対する消費者の生の反応など各種情報収集を行った。

平成18年7月26日(水)

庄司 仁氏(商品開発)

平成18年7月27日(木)・28日(金)

伊藤 力行氏(マーケティング)



イトーヨーカドー 横浜上永谷店
三重 東紀州～紀伊長島港・引本港 食フェア

< 担当者のコメント >

平成16年度のJAPANブランド育成支援事業では、バイヤーなどの業界関係者に対するマーケティングであったが、平成18年度の本事業では消費者及び業界関係者を対象としたマーケティングとした。その第1弾が今回の消費者を対象とした「イトーヨーカドー 横浜・上永谷店」でのラボラトリー手法による事業です。食品業界では、首都圏での顧客の反応が全国展開に大きく影響するとされることから当店舗での実施に至った。

消費者の生きた情報を得ることができ、食品の安全性や品質表示などに対する消費者の意識の高さを実感し、パッキング方法やパッケージデザイン、内容・品質表示などが課題となった。

今後の具体的な販売ルート開拓や商品開発に繋がるマーケティングができたとともに『JAPANブランド ザ・たべきり』をPRする場としても効果的であった。

6. 能登町商工会 【『能登の醸し』ブランド発信事業】

< 今月の事業実施状況 >

第1回事業推進会議を開催し、委員会設置規程、委員長・副委員長選出、事業計画について協議した。

事業者説明会を開催し、事業内容を説明し、協力を依頼した。

ジャパン・インターナショナルシーフードショー(7月19日～21日 東京ビッグサイト)に出展した。



ジャパン・インターナショナル・フードショー
7/19～7/21 東京ビッグサイト

< 担当者のコメント >

欧米やアジアでは健康食材・高級食材としての魚の需要が急増し、日本は買い付け競争に敗れつつある今日この頃であります。これまで身近であった魚料理を気軽に食べられなくなる日も遠くないと言われていますが、こんな時だからこそ海洋資源と共生した意義ある漁業を行い、水産関連企業を始めとする従事者の英知を結集し、水産物を価値あるものにすることが必要であり、そのためには地元住民の理解と協力が大変重要であると実感しました。

漁業とともに繁栄してきた能登町においても、海洋資源の有効な利活用が町の経済基盤の盛衰を握っているといっても過言ではありません。また一方で美味しい魚を家庭に供給することによって、健全なる食生活を町民に保障する意義ある産業であると考えます。このような意味で『いしり』は限

られた資源の再利用や食育の面から、まさに現代に求められた食材であることを再認識しました。現代は無いものが無い時代であり、大抵の望むモノは手に入れることが可能です。このような状況の中でありながらパイヤーは他と違うモノや差別化されたモノを貪欲に探しています。価格が高い・低いということよりも、本当に良いものを探し求めていることが実感できました。「いしり」は能登の新鮮な素材とすばらしい風土が育んだ伝統的な食品です。能登にしかない伝統的な食文化を引き続き地域に残す活動を今以上に活発化する必要があります。「いしり」の持つ歴史やそのものの旨さが国内外で見直され始め、町民が地域づくりの主役になろうと主体性を発揮し、自立的な取り組みをスタートさせる舵取りを商工会がしなければならないと思われまます。そのためにはこういった動きを継続させるため、海外や国内未開発市場への開拓とニーズに促した商品作りに関するノウハウを習得しなければならないとあらためて実感しました。

7. 山中商工会【YAMANAKA ブランドの確立】

< 今月の事業実施状況 >

- 4月26日 NUSSHA メンバー会議(10人出席) 2006年度事業スケジュール
- 5月16日 同上(7人出席) 国内発表展示会(インテリアライフスタイル2006)出展内容について
- 6月12日 同上(8人出席) インテリアライフスタイル2006 ブース運営について
- 6月14日～16日 インテリアライフスタイル2006(東京ビッグサイト)出展
- 6月23日 NUSSHA メンバー会議(10人出席) インテリアライフスタイル2006出展結果と反省会、国内販売方針
- 7月4日 テレビ東京「ガイアの夜明け」で NUSSHA 事業の取り組みが紹介される
- 7月5日 検討委員会(6人出席)事業計画検討及び昨年度事業取組みの振り返り
- 7月12日 検討委員会(21人出席)本年度事業計画についての検討と承認を行った
- 7月25日 NUSSHA メンバー会議(6人出席) 国内販売スケジュールと海外展示会出展について



インテリアライフスタイル 2006
6/14～6/16 東京ビッグサイト

< 担当者のコメント >

インテリアライフスタイル 2006 出展では、国内市場の手応えを感じるとともに従来の漆器市場を離れた新たな国内販路の掘り起こしという課題が見えてきた。またNUSSHA事業は全国紙での記事掲載や経済ドキュメンタリー番組に取り上げられるなどメディアの関心も高く広報面での幸運に恵まれ、国内展開については無難なスタートとなった。

8. 京都府商工会連合会【丹後テキスタイル】

< 今月の事業実施状況 >

- 6/2 平成18年度の参加事業者の募集を行った。その後、参加希望事業者から、「本年度の事業計画などの説明会の開催要望」があり、開催することとなった。
- 6/26 JAPAN ブランド育成支援事業説明会を開催。
対象者13人集め、今回のコーディネーターとなる「池田氏」のプロフィールの紹介と、本年度の方針として、「展示会」の開催と池田氏のコーディネートによる、販路開拓支援を中心に行うことや最終的な目標として、「継続的な販売拠点づくり」を目指していることを説明した。また、今年度から事業費の三分の一を参加事業者から集めること、事業予算を750万円に想定していることなどを説明した。

7/12 第1回ワーキング委員会

池田氏による講演会を実施。最近のヨーロッパにおける「テキスタイル市場」についての講演があった。ターゲット市場としては、プレタポルテ以上的高级市場であること、高い技術力をしっかり伝えることなどの指導があった。委員会では、もう少し、具体的な中身がほしいという意見や、今回のブランドにふさわしいものかどうかについて、池田氏の現地指導がほしいという希望があったので、本会の事業費予算によって、「現地訪問」することとなった。展示会の対象者としては、「デザイナー」とし、丹後テキスタイルとのコラボレーションを目指すこととした。

7/19 第1回ブランディング委員会と合わせて第2回ワーキング委員会を開催。

豪雨の影響で列車が不通となり、委員会にはワーキングメンバーと委員2名のみの出席となったため、他の委員については、資料送付の上、書類による意見収集とした。特に、近畿経済産業局の福崎委員からは、参加型ではなく、独自で展示会を開催した昨年度の展示会に対して、高い評価があった。参加事業者の負担金については、概ね30万円で了解した。

<担当者のコメント>

参加事業者は、参加負担金の使用の目的を明確にすることを強く望んでおり、その回答資料作成に追われた。

一方では、池田氏や越智氏といった専門家が入ったことで、中身のみえる事業展開が可能と思う。前向きな議論に終始して、展示会を土セ年度以降も開催できる目処をつくりたい。特に、「ホテル開催」については、うまくルートに乗せ、現地コーディネーターの活用により販路拡大を図りたい。

9. 一宮町商工会【～Kosai Aroma～香りの文化を演出し「あわじ島の香司」ブランドの確立】

<今月の事業実施状況>

Kosai Aroma 委員会にて事業計画(7/4・7/24)

- ・試作品開発 香立(小) 8月末完成目標・香立(大) 9月末完成目標
香りのペアストラップ(練香もしくはコーン入16種類) 11月末完成目標
- ・地域ブランド登録「あわじ島の香司」を日本及び仏・米・中で国際商標登録
- ・HP作成 日、英、仏3ヶ国語による「あわじ島の香司」の紹介
まず日本語のHPを8月末に完成
- ・展示会、PRイベント 内容、時期について協議
- ・広報「あわじ島の香司」ブランドのお香をのじぎく兵庫国体出場選手に記念品として配布

10. 東かがわ市商工会【市場性を重視した試作品から商品への展開を図り、ブランドの確立と、メーカーと市場を繋ぐシステムの構築】

<今月の事業実施状況>

専門家等を招へいし、今後の進め方等について検討中。

11. 広川町商工会【古くて新しい！新風久留米絨ブランド化事業】

<今月の事業実施状況>

7月18日に事業推進委員会を開催し、事業計画の概要を決定した。原材料の糸を変更したテキスタイルの開発とデザイナーブランドとの提携、アロハシャツなど若者向け洋服、クールビズ対応シャツの開発について決定した。


海外展示会について、生地展示とファッションの展示の2箇所に出展するが、生地はメゾンエオブジェかティッシュブルミエ、ファッションは昨年の継続でプレタポルテパリに出展することを決定した。国内展示会として東京でインターナショナルファッションフェアに出展するほか、地元の絨まつり、藍愛フェスタなどのイベントでPRを行う。



事業推進委員会開催(7/18)


	<p>広報活動については、久留米絣をテーマにした公募型のフォトエッセイ集の制作により産地自体をブランド化する取り組みを実施すること工房めぐりマップの制作、工程パネル、パンフレットの制作を行うことが決定された。若手中心でテキスタイル部会を開催しているが、7/4、7/14、7/27の3回開催した。東京のメーカー等を訪問した結果報告、商品開発について協議し、デザインを決定した。</p> <p>< 担当者のコメント > 若手中心の部会を立ち上げて活動を週1回ペースにしたことで、様々な面で良い効果が現れてきた。事務局サイドと絣事業者が頻繁に議論することで問題点やその解決方法についてよく見えるようになってきている。若手事業者の意識が高まっていることも効果のひとつであろうと思う。今のところ、準備も着実に進んでいるし、県連や専門家のサポートにより難航するような問題もなく順調である。久留米絣事業者は、納期がタイトであることと、昨年に増してレベルの高い商品を作ろうと意欲的に活動している。</p>
12.	<p>苓北町商工会【CERAMICA AMAKUSA 天草陶石・陶磁器ブランドプロデュース事業】</p> <p>< 今月の事業実施状況 > 7月3日PJ委員会開催 海外展示会(「JAPAN EXPO」11月18・19日ロサンゼルス)出展に当たり、開催要項の周知及び関係機関(特に県、現地邦人会)の協力体制の可能性などについての情報収集を行った。 ホームページの改良(作成途中) ネット販売機能を追加したり、開発試作品(商品)の紹介ページを追加。</p> <p>< 担当者のコメント > 商工会事業や地域イベントなどで取り掛かりの時間不足。 今後の業務の計画性・タイムスケジュールが極めて重要。</p>
13.	<p>大分県商工会連合会【Harb & Harvest Oita プロジェクト】</p> <p>< 今月の事業実施状況 > ワーキング会議で今後の事業計画、予算、サンプル発送、試食会等について協議を行った。</p>
14.	<p>鹿児島県商工会連合会【薩摩が誇る美と技のコラボレーション】</p> <p>< 今月の事業実施状況 > ・7月7日に第1回実行委員会を開催し、昨年度に引続き採択された JAPAN ブランド事業を実施する旨委員に説明。今年度も昨年度に引続き実行委員長に上水流溜氏、副委員長に鈴木宏明氏にお願いした。また、プロジェクト採択委員から指摘のあった、参加事業所については商工会地区の事業者に対して呼びかけていく事を決定した。 また、海外展示会については来年1月パリとウィーン又はミュンヘンで開催。国内展示会においては東京で開催することを決定した。 ・7月28日に第1回ワーキング会議を開催。切子・紬のコンセプトについては時代にマッチしてコンセプトをもう1度考える。切子と紬の融合した商品を作ることを決定。</p> <p>< 担当者のコメント > ・今回この事業に参加している事業所は50万～100万円を負担しており、新たに参加事業所を呼び掛けても、50万円以上負担する事業者は少ないものと思われる。負担金は出せないが事業には参加したいという事業所を参加させるかどうか？また参加するのであれば負担をしている事業所としない事業所の整合性をどう図るのが問題である。</p>

平成18年度JAPANブランド採択プロジェクト月次報告 ブランド確立支援(1年目)案件:2006年7月分

番号	実施団体名 / 今月の事業実施状況 / 担当者のコメント
1.	<p style="text-align: center;">菟田野町商工会【UTANO ブランドの創出～毛皮・鹿革を活用した地域ブランド構築プロジェクト】</p> <p><今月の事業実施状況> 事業実施実行委員会で事業計画案を説明。 主な取り組み内容として、 1. 国内大手鞆製造メーカーとの協働により、鹿革素材を活かした婦人用バッグの開発 2. 化粧パフや洗顔用スポンジなどの化粧用品とエステティックサロンでの実用化を目指し、専門家による試作品の開発と機能性評価試験を行い、製品化を目指す事を協議した。</p> <p>服飾雑貨部会・素材としての鹿革の特性を知るため、原皮を分析してもらい、どのような鞆に縫製することが適しているか、検証してもらう事を協議した。 化粧・エステサロン部会・鹿革の持つ素材特性を活かした化粧用品(パフ、洗顔スポンジ、化粧マスクなど)の開発とエステサロンでの実用化試験の実施を検討した。</p> <p><担当者のコメント> 鹿革は、素材としての繊維密度が他の動物よりもきめ細かく、強靱であることが科学的に立証されている。鹿革が持つ特性(通気性、保湿性、吸湿性など)を活かした新製品開発に取り組む事になった。今まで武道防具を主要販路と捉えてきた経緯から、新規販路開拓に大きく貢献出来るものと期待している。</p>
2.	<p style="text-align: center;">中芸地区商工会【「魚梁瀬(やなせ)杉」再生プロジェクト】</p> <p><今月の事業実施状況> 委員会・ワーキングにおいて、本年度の事業・予算等を決定。 18年度は、木のバッグ「モナッカ」を中心に以下の展示会への出展と現存商品の改良、木の新製品開発等を中心に実施する事とした。</p> <p>「国内展示会」 ・ 8月:G マーク ・ 10月:100%デザイン</p> <p>「国外展示会」 ・ 2月:ドイツ アンビエンテ</p> <p>「18年度事業実施に対する基本的な考え方」 ・ 消費者が望むような、デザイン・商品の構築 ・ 直接消費者の声を聞く ・ ビジネスモデルの再構築(流通形態の見直し)</p> <div style="text-align: right;">  <p style="text-align: center;">委員会の模様</p> </div>

平成18年度JAPANブランド採択プロジェクト月次報告

戦略策定支援(0年目)案件:2006年7月分

番号	実施団体名 / 今月の事業実施状況 / 担当者のコメント
1.	<p>宮城県商工会連合会 (木地玩具、漆器の融合)</p> <p><今月の事業実施状況> 1. 7月28日・第1回戦略策定委員会 本事業初めての委員会であり、JAPANブランド育成支援事業の概要について及び本会における事業テーマと事業の進め方について説明を行った。</p> 
2.	<p>梁川町商工会 (ニット製品)</p> <p><今月の事業実施状況> ・7月3日 第1回「伊達ニットブランド化」推進委員会の開催(アドバイザー委員会合同会議) 業計画書 予算書 委員長・副委員長を決定 研修会の開催 「モスクワ市場の現状について」 講師 マルナカインターナショナル 代表取締役 中尾千恵子 氏 ・7月15日(土)現地(モスクワ)調査打ち合わせ (株)ミュゼ 代表取締役 関根裕子 氏 9月18日からの全ロシア見本市開催に合わせての調査事項打ち合わせ</p> <p><担当者のコメント> ・自由主義社会とは違い情報が少ない。情報の収集に力をいれている。又、ビザの発行手続き等にしても自由国家と異なり煩雑である。まずは、現地調査に全力を挙げたい。</p>
3.	<p>白川村商工会 (薬草・山野草)</p> <p><今月の事業実施状況> 7月に JAPAN ブランド戦略策定支援事業専門委員会を2回開催した。第1回は「ブランドとは何か?」について事務局より説明並びに本事業の実実施計画について意見交換を図る。第2回は地域の現状を把握するために、地域の強み・弱み外部環境での機会・脅威について委員間での意見を出し合った。また、コンサルタント選定に当たっては3事業者より提案書をいただき委員会において選定中である。</p> <p><担当者のコメント> 「ブランド」という他地域にはなく類似品でもなく地域特有の財産の中から「差別的でありかつ優位性のあるもの」を創り上げるためには、地域の現状をしっかりと把握し見極めた上で、共通認識を持った人づくりの中から始まるように感じられるし、時間とエネルギーを要することでもある。</p>
4.	<p>鳥取県商工会連合会 (インテリア)</p> <p><今月の事業実施状況> 7月13日(木)事業参画者会議 事業参画者に事業計画を説明。事業内容、テーマ、委員会構成、事業スケジュールについて了解を得る。 7月27日(木)第1回戦略策定委員会 委員会委員に事業計画を説明。INABAブランド確立のためのコンセプト、戦略を協議。シンプル、上品さを兼ね備えた鳥取県東部(因幡地方)の地場産業をコラボレートし、世界に通用する「インテリアブランド」を目指す。</p>

5. 新市商工会（インテリア）

<今月の事業実施状況>

7月11日(火)19:00～19:40 第2回委員会開催

- 1.第1回委員会での内容確認 ・昨年度の事業内容・水燃糸での商品開発・情報の共有化
- 2.提案書の確認 ・ターゲットの設定(都市近郊 四、五十歳代の主婦富裕層)・店の場所・作るもの
- 3.提案書を踏まえてのアイテム発表(前回宿題)
- 4.ワーキング委員会の設置 決定・役割説明
- 5.先進事例の研究



7月11日(火)19:50～21:00 第1回ワーキング委員会

- 1.ワーキング委員会の活動内容の説明
- 2.何をやるのかを考える。
- 3.9月の市場調査の準備・目的について
絣についての分析を含め、何をコンセプトにするか。を議論。9月にフランスヘメゾン・エ・オブジェの視察を決定。

7月31日(月)19:00～21:30 第2回ワーキング委員会

- 1.ブランド戦略 アイデアの整理（商品カテゴリーを生活シーンで分類）
- 2.商工会からの報告事項
- 3.メゾン・エ・オブジェ打合せ フランスの「ジパング」での商品展示に係る商品の選定と主催者への資料選定。
お土産は、商工会女性部作成の備後絣で折った鶴と兜に決定。商品の選定については、次回ワーキング委員会にて決定する。

<担当者のコメント>

ターゲットを、都市近郊に在住の人、或いは、四、五十歳代の主婦富裕層に絞り、ワーキング委員会を設置し、実働をワーキング委員会にゆだねる。ワーキング委員会で絣についてアイデア・アイテムに対し自由な発想にてリストアップする。生活シーンで分類し、次回以降にターゲットで分類し、集約に繋げる。それと平行してフランスのメゾン・エ・オブジェの視察、「ジパング」への商品の選定等準備をする。

今後は既成概念にとらわれず、柔軟な方向性をもち、事業を進める。

6. 三加茂町商工会（木製品）

<今月の事業実施状況>

7月2日～3日 国内市場調査を実施。

- ・銀座松屋デザインギャラリー IKEA 助六 IDEE 玉川高島屋店
- ・表参道スパイラル ユナイテッドアローズ原宿本店 表参道ヒルズ

2日間にわたりショップを見て周り、担当者からお話を聞き、アイテムや陳列、店舗構成、客層などを視察した。

7月18日 ワーキング会議を開催。

市場調査の内容について検討し、近頃のトレンドについて確認するとともに、各自見たり感じたりしたことを、互いに情報として共有しあった。

また、市場調査によって得たヒントから、商品開発のアイデアを出し合った。

7月24日～25日 セミナー、説明会等に参加。



7月27日 県商工担当と打合せ。協力機関である徳島県立工業技術センターを訪問、打合せ。
7月31日 デザイナーと打合せ。

今後の事業展開や販路について相談。また、パリ市場調査時のアイテム、アプローチ等の検討をした。

<担当者のコメント>

国内市場調査を通じて、参画事業所の意識が少しずつ変化してきているように思える。地方でモノをつくっているだけでは、商品開発の限界があると感じた。また、自社製品の上代価格がどのくらいで、どういったショップに並んでいるかを見ることができ、流通の仕組み、最近のトレンドの方向性をつかみ、ブランドづくりの企画へむけて、たいへん参考になったようだった。

新商品開発の研究に取り組み始め、アイデアが少しずつ出始めたが、まだターゲットやドメインの策定が明確でないので、誰にどのように使ってもらいたいのか、どの市場の商品をつくりたいのか、ぼやけてしまっているような気がする。

戦略策定事業の場合、モノづくりや展示会といったものがないので、事業所のモチベーションを保つのが難しい。モノづくりはできるが、アイデア出しや販路、利益拡大のための戦略づくりなどは非常に苦手な方が多いので、うまく導いていくのが難しい。

また、事業がすすんでくると、参画事業者間で温度差が出てきてしまっているような気がする。

7. 五十崎町商工会 (和紙)

<今月の事業実施状況>

戦略策定委員会

第2回(7/6)

・協議事項:スケジュールの確認、和紙の歴史・凧の歴史・フリートーク

・決定事項:和紙のネーミング「五十崎和紙(五十崎藩天神和紙)」・ワーキング委員会の設置

第3回(7/20)

・協議事項:和紙で何をしたいか、フランス視察について

・決定事項:ワーキング委員会の設置(項目・メンバー)、活動スケジュール



第2回委員会(7/6)

<担当者のコメント>

・活動方針について協議した結果を踏まえ、今後は、ワーキング委員会で、フランス視察準備・市場調査等について協議を進める。

・委員の皆さんの、熱心さと自主的な活動に支えられて、フランス視察の準備も進めていく。

・五十崎の和紙及び凧について、地元の委員も再認識するきっかけになった。

8. 香美市商工会 (刃物、農機具)

<今月の事業実施状況>

日時:平成18年6月14日(水曜日)

参加者:西山 武・十河 正雄・山下 哲・宗石 博孝・山名 元・秋友 祥造・田村 有三

議題:JAPANブランド事業説明会

内容:

・11月14・15日の刃物見本市に参加かできるように渡欧。参加者5名、1名30万円助成。不足額は自己負担

・7月5日に開催される「伝統産品輸出シンポジウム」に参加。参加者は西山・山下・山名・門田。

・見本市には土佐の刻印と高知県土佐刃物連合の刻印を押印して出品する。

・今年1年は今回応募したメンバーで行う。

・次年度については商品の開発及び商品販売のため他のメンバーも加える事もある。

・最終的に立ち上がった場合は、香美市商工会から手を離し、別途事業所を設立するか、高知県土佐刃物連合に委託して行う。

・事業は毎月1回委員会を開催し事業を勧める。次回は7月14日

日時:平成18年6月19日(月曜日)

参加者:秋友義彦鍛造所・宗石刃物製作所・富士源刃物(企業を訪問し製造工程・生產品・販売方法を聞き取り)

議題:JAPANブランド事業 (株)t・c・k・w立川氏来高し調査

日時:平成18年6月20日(火曜日)

参加者:西山商会(西山 武)高知金物(十河 正雄)土佐刃物流通センター(田村 有三)高知県商工会連合会 吉川

議題:JAPANブランド事業(問屋事業との話し合い)

内容:(参加者より)地域の現状・産業の動向等について話し合いをする。(株)t・c・k・wのストーリーとしては下記のように動いて行く。

・分析 仮説 戦略 コンセプト 具体的な動き

・単に刃物を輸出するのではなく文化を輸出する

日時:平成18年7月5日(水曜日)

参加者:西山商会(西山 武)富士源刃物(山下 哲)土佐金物工業(山名 元司)事務局(門田 貴司)

議題:伝統産品輸出シンポジウム

内容:伝統産品シンポジウム及び展示交流会に参加

日時:平成18年7月14日(金曜日)

参加者:商工会長 依光陽一郎・プロジェクト委員長 西山 武・プロジェクト副委員長 十河正雄・プロジェクト副委員長 山下哲・プロジェクト委員 永田 宇郷・プロジェクト委員 高橋 千恵・プロジェクト委員 野村 俊博・プロジェクト委員 宗石 博孝・プロジェクト委員 田村 有三・プロジェクト委員 山名 元司・プロジェクト委員 秋友 祥造・プロジェクト委員 門田 貴司・オブザーバー 四国経済産業局(重岡)

議題:「土佐打刃物 JAPANブランド」の取り組みについて

内容:委員の紹介および事業説明を行う。

日時:平成18年7月14日(金曜日)

参加者:・西山商会(西山 武)・富士源刃物(山下 哲)・土佐刃物流通センター(田村 有三)・土佐金物工業(山名元司)・宗石刃物製作所(宗石 博孝)・秋友鍛造(秋友 祥造)・(株)t・c・k・w(永田)・香美市商工会(門田 貴司)・四国経済産業局(重岡)

議題:JAPANブランド検討委員会

内容:生活のonとoff・日本ブーム(考え方が売れている 例えばスローライフ)・オーダーメイド志向 海外でデザイン、造り手と使い手の会話がデザイン・誰に向けての JAPAN ブランドか?・ターゲット オーダーメイド包丁

日時:平成18年7月24日(月曜日)

参加者:門田貴司(香美市商工会)

議題:「海外進出セミナー ~海外展示会出展について~」

内容:別紙のカリキュラムにて開催

9. 大木町商工会（花莫産）

< 今月の事業実施状況 >

4市4町の広域であり、関係市町の担当課長及び関係商工会・商工会議所の担当者により、JAPAN ブランド委員会は構成されており、J-ブランド（花莫産）育成支援事業運営委員会（第1回）を7月11日（火）に開催し、委嘱状交付し、各委員の紹介をし、委員長（大木町商工会長 池上 厚）・副委員長（福岡県花産協同組合理事長 猪口 芳範）を選任し、議長に池上委員長より議事は進行し、

（1）J-ブランド事業運営委員会設置規程（案）及び J-ブランド策定実行委員会設置要綱（案）を説明し、審議し委員会に諮ったところ全員異議なく可決承認した。

（2）J-ブランドのプロジェクトの概要と目標・スケジュール及び推進体制・予算についての説明をし、審議し委員会に諮ったところ全員異議なく可決承認した。

（3）実行委員会委員選任については、早急に選任すると言うことで、委員長、事務局一任を委員会に諮ったところ全員異議なく可決承認した。

（4）その他については、「16、17年度での2年間で実施した、い業振興活性化事業（県補助金）の成果を踏まえて、この J-ブランド事業に生かしてもらいたい」という意見がでた。



第1回 JAPAN ブランド運営委員会(7/11)

< 担当者のコメント >

JAPAN ブランド事業については、手さぐり状態であり、今後研修会等を通じて勉強していきたいと思っています。

10. 小石原村商工会（陶器）

< 今月の事業実施状況 >

6月14日（水）理事会においてジャパンブランド事業説明

6月22日（木）小石原焼ブランド推進委員会開催

本事業の概要及び専門家等の説明並びにスケジュールの報告を行う。

7月24日（月）海外進出セミナー出席

7月25日（火）ジャパンブランド担当者会議出席

11. 城島町商工会（瓦インテリア、河川用環境ブロック）

< 今月の事業実施状況 >

平成18年6月20日

城島瓦 JAPAN ブランド戦略策定委員会（第一回）を開催

1. 委嘱状交付

関係国県市の担当課長及び関係商工会、事業団体の担当者により、Japan ブランド戦略策定委員会は構成されており、各委員の紹介をし、委嘱状を交付した。

2. 議事

1) 委員長、副委員長選任に入り、委員長には当商工会吉武会長、副委員長には同じく当商工会野田、江上副会長を選任した。

2) プロジェクトの概念と今後の目標、推進体制、予算および今後の検討項目とスケジュールについて事務局より説明をし、審議し委員会に諮ったところ全員異議なく可決承認した。

- 3) 親水性環境ブロックは、エコロジーの面から良い着想である。
 - 4) 親水性護岸工事を目指すのであれば、コスト競争など相当な検討必要である。
 - 5) 潟粘土は、ほぼ無限であり、景観の回復は難しいのではないか？
 - 6) 航路など必要な場所の除去できれば良い発想だと思われる。
3. 実行委員会選任は、第一回の担当者会議にて決定することで承認をお願いした。
 4. その他の中で、次回予定等を話しながら会議を終わった。



第1回 JAPAN ブランド戦略策定委員会 (6/20)

平成18年7月4日

第一回城島瓦 JAPAN ブランド担当者会議を開催

1. 実行委員会メンバー選出について

学識経験者、専門家及び瓦組合代表の8名を選任した。

2. 専門部会人選について

ワーキンググループの人選に移り、専門部会を技術部会、デザイン部会、市場調査部会の3のセクションに設定し、協議のうえ、当瓦協同組合会員 + 専門家でそれぞれ決定した。

3. 今後のアクションプランについて

来月、技術部会で佐賀大学での有明粘土の利用に関するレクチャ、ラボ見学予定。デザイン部会では、デザインとは何か？と、言うテーマでの会議を予定した。

平成18年7月25日

第一回城島瓦 JAPAN ブランドデザイン部会会議

1. デザインについてのレクチャ(講師建築巧房高木正三郎)

デザインについては、転用と包容の2つのアプローチがあり、転用とは、既存の製品や素材をまったく新しい用途に転用することで、思いもよらない価値を付加することである。また、包容とは、日本の伝統文化に西洋的方法論を導入し、新規な価値を創造することだ。と、専門家よりわかりやすく説明受けた。

2. 意見交換

河川護岸用のコンクリートに替わるエコブロックが一つの候補であり、コンクリートが出現する前の日本には、赤土 + にかわ + にかりによる護岸工事の例がある。そして、潟粘土は臭気があり、焼成しないと壁、土間には無理だとか、焼成しないと強度が出ないなど、活発に意見交換があった。

潟粘土には、植物成育促進作用があり、土壌改質剤としての利用可能性のある事が指摘された。

< 担当者のコメント >

1. プロジェクトのコンセプト、ワークスコープ、スケジュール、予算等について基本的な理解が得られた。
2. 委員夫々の立場、専門の観点から貴重な指摘をいただいた。
3. Japan ブランド事業については、手探り状態であり、今後研修会等を通して勉強していきたいと思っています。